

久しぶりに同窓会のHPを開いて何気なく見たページ（8期の親馬子馬の会・東京支部平成17年の記事）で8期の先輩「波多野敏春」さんの名を知りました。既に故人となられているのですが小説家とのことで、作品のなかに白新中学校を舞台にした「銀色の道」の紹介がありました。早速手に入れて読んでみました。8期の方々が在学されていた昭和29年から31年にかけての白新中学校が舞台。白新中学生同士の淡い恋を描いています。30年の大火の様子も出てきますし、あの懐かしい木造校舎の情景も背景になっていて、実在だったとおぼしき先生方の名前も仮名（おそらく）で登場します。その仮名と思われる先生のなかで15期の私たちにも判る“あだ名”が出てきます。それは“ジャンバルジャン”、陸上部の先生(実在の細川先生も陸上の先生でした)として登場し、主人公を陸上部に誘う役回りを演じています。ヒロインも陸上部に所属していて、その恋は進展を見せます。もし、この小説をお読みの方がおられて、あるいはこれから読まれる方々で、小説のなかの仮名の先生方の実名探しをしていただけたらと思います。勿論実在の先生と合致しない場合もあると思われませんが、当時の思い出を紐解く楽しさがあるように感じます。波多野敏春さんとその「銀色の道」をご紹介いただいた8期の同期の方々に御礼申し上げるとともに、もし実名探しなどに発展し、同窓会の活動に花を添えるようなことになれば大変うれしく思います。今は亡き波多野さんもきっと喜ばれるのではないのでしょうか・・・